

講義名	生活文化論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	西牟田 真希		
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 1時限	授業形態	
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 /		
履修開始年次	2年生	単位数	2
備考			
主題と概要			
<p>本講義では、近代国民国家の存在に揺らぎが見られる現代グローバル化社会において、生活するさまざまな人々の文化のあり方を学ぶ。文化を理解する代表的な視点と、その視点の変化して、これまで焦点があてられていなかった文化が注目される現象や事例から、生活文化の多様な認識を解読することを目指す。具体的には、まず「文化」に関するこれまでの研究蓄積を紹介し、文化を通して社会や人ひとの生活を理解するための基本的な立場や考え方を学んでいく。その上で、労働者や生活者の文化がどのように形成・保持されたかを見る。さらに、これまでの視点と自らの文化とのギャップ、他の社会や生活者への影響を比較して考察する。</p>			
到達目標			
<p>社会学における「文化」の概念について理解し、国家の枠を越えてグローバルな動きを見せる現代社会の文化の展開について、考察することができるようになる。さまざまな事例を通して、特に社会生活の身近な生活文化に対して、学問的アプローチができるようになる。</p>			
提出課題			
<p>単元ごとに授業課題を実施する。授業課題の各要素を最後にまとめたおして期末レポートを提出する。</p>			
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
<p>単元ごとの授業課題は、実施前に方法やポイントを説明して、実施後に解説を行う。</p>			
評価の基準			
<p>授業の取り組み姿勢・授業課題（30％）、期末レポート（70％）により総合的に評価する。</p>			
履修にあたっての注意・助言他			
<p>文化に関する身近な社会問題に常に関心を持っておくこと。授業は講義形式にて行うが、授業内容に関連した各自の体験や意見・考察も課題などで積極的に求める。</p>			

教科書
.使用しない。
プリント資料及び参考文献
<p>各単元でプリントを配布する。 参考文献は、授業の進度や必要に応じて、授業内で適宜紹介する。</p>
授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 身体と生活文化 3. 制度・言語・行為 4. 各自のテーマと仮説を決定しよう 5. グローバル化にみる生活文化 6. 文化帝国主義と文化論的転回 7. 労働/消費と生活文化 文化の享受と戦略 8. 各自のテーマの項目を比較・観察しよう 9. 階層と生活文化 10. 遊戯・問題と生活文化 11. メディアと生活文化 12. 資料・文献を探して各自のテーマと比較しよう 13. 記憶と文化 文化の重層性 14. 文化の機能とアイデンティティ 15. まとめ（分析・考察）をしよう 生活文化になぜ相違がみられるか
授業形態（アクティブ・ラーニング）
<p>ア：PBL（課題解決型学習）</p> <p>イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p>ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p>エ：グループワーク</p> <p>オ：プレゼンテーション</p> <p>カ：実習、フィールドワーク</p>
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>授業内容を参考にして、各自でテーマ設定を行う・・・30分～1時間程度 各自のテーマの項目を比較・観察する・・・1時間程度 テーマに関連する文献・資料を探して内容をまとめる・・・1～2時間程度 意見支持・立場の説明、分析・考察を行う・・・30分～1時間程度</p>
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
<p>使用しない</p>
実務経験の有無及び活用
<p>無し</p>
備考
<p>授業の進行具合によって、前後のカリキュラムを流動的に変更する場合がある。</p>